

情 報

国際会議出席報告
—2010 年度後期若手研究者海外学会出席助成—
米国農学会, 作物学会, 土壌学会 2010 年度国際会議に参加して

井関 洸太郎
(京都大学大学院農学研究科)

本会は 2010 年 10 月 31 日から 4 日間の日程でカリフォルニア南部, ロサンゼルス近郊のロングビーチにて開催された。作物学, 育種学, 雑草学, 植物生理学, 栄養学, 土壌・肥料学, 農業気象学, 生態学など, 細かく分けられた 30 を超える分野にわたり, 計 341 のセッションからなる 2800 以上の口頭およびポスター発表があった。参加人数も 3500 人以上とされ, 国際学会への参加が初めてであった事もあり, まずはその規模の大きさに圧倒された。年に一度, 米国の各地で開催される本学会であるが, 後に聞くとところによると今回はここ数年で最も参加人数が多かったようである。数の多さから自分の研究に関連する環境ストレス耐性の分野に絞って見て回ったが, その中だけでもトウモロコシ, ダイズ, コムギ, ソルガム, コットン, ターフグラスなど研究対象が実に多様であった。それらに共通して目立ったのが高温ストレスに関する研究である。近年世界各地で多発する異常高温に加え, 米国では昨年, 一昨年と 2 年連続で農作物に対する高温被害が著しかったことが影響していると考えられ, ストレス耐性に関する研究への関心

の高さが伺われた。また, 米国作物学会のセッションにおいては “Green Revolution 2” が共通トピックの一つとして掲げられていた。ここでも環境ストレス耐性の付与がその主な解決策の一つであるとされ, 生理学的な話からバイオインフォマティクスに関する話題まで幅広く活発な議論が行われた。このような背景もあってか, イネの乾燥ストレスについて扱った私のポスター発表も多くの方に興味を持ってもらえたが, 2 時間という時間の都合と不慣れた英語のため, 十分納得のいく説明ができなかったことが悔やまれた。しかし, 上記のような膨大な数の発表中には自分の研究に非常に近いものもいくつかあり, 自らの研究の方向性に自信を持つことができた一方で, うかうかしているとすぐに取り残されてしまうという危機感を覚え, 様々な意味で今後の研究活動にいい刺激となった。

本学会参加を通じて多くの経験・知識を得る事ができた。出席にあたり費用の一部について若手研究者海外学会出席助成を通じて日本作物学会より援助を賜りました。この場をお借りして厚くお礼申し上げます。